

令和6(2024)年度 事業報告書

特定非営利活動法人 横浜発明振興会

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

1. 事業計画の総括

コロナ禍も終息し、「日曜発明サロン」も従来通りのリアル参加+WEB参加のハイブリッド開催が定着してきましたが、参加方法の多様化にとれない、運営方法も工夫が必要だと感じさせられた1年でした。

コロナ禍の後遺症か出席人数は若干少なめで推移しましたが、新会員が1名増加し、第1部の作品発表では新鮮な作品発表が多くなされました。期をまたいだ4月には例年通り年間コンクールも実施いたしました。

第2部の発明研究会は、会員の知識と技量向上の為に、顧問の小林先生、婦人発明家協会（WEB）、等の講演会を3回行いました。また展示会やWEB等で収集した新商品・新技術を「こんなものを見つけました」のコーナーで紹介しました。会員の皆様のアイデア創出の一助となる有意義な時間になったのではないかと考えています。

外部イベントには、4月の「GIBUN手づくり市」と11月の「中区民祭り ハローよこはま2024」に2年連続で出店しました。「GIBUN手づくり市」は来場者層が前年と変わらず毎年出店する意味に疑問が残る結果となりました。「ハローよこはま」は出店場所に恵まれず、来場者数が前年に比べ大幅に減少しました。しかし、これらに出店した経験により、今後当会がPR出店する際の仕器とレイアウトイメージが概ね確立することができ、今後の出店ノウハウが蓄積できたと考えています。

これら外部イベントやホームページで対外的に「アイデア創出の楽しさや知的財産化の啓蒙」をおこなってまいりましたが、スピード感とインパクトのある映像提供などが今後の課題と認識し、将来の会員増強、特に女性会員増加を目指してホームページの刷新に着手しました。（5月リニューアル完成予定）

当会が入居していたセルテ建て替えに伴い、3月31日をもって退去しました。新住所は「ものづくりスペース瀬谷」内に移し、登記上の住所は小峰副会長宅、「日曜発明サロン」に必要な書類、仕器・備品は関内の月極貸ロッカーに収納します。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

No.	定款上 事業名	事業内容		結果
		中項目	詳細・補足・課題	
1	① 発 明 ・ 考 案 教 室 の 開 催	「日曜発明サロン」開催	①会場・オンライン参加共に、参加人数を増やすことを目指す。 会場参加者の音声集音改善。 ②作品発表時の議論活性化のため、類似先願情報を提供。 ③「特許・意匠登録」の法律、最新知識、情報提供。 ④外部講師による講演を年3回実施。他の発明団体や企業担当者の講演など。	①様々な事情により会員の参加人数が減少していますが、第2部研究会テーマは意味のある内容で開催できたと判断しています。健康上の理由等により会場参加出来ない方が「オンライン参加」できる開催方法にしていますが、会場内の音声・集音課題が解決しておらず、オンライン参加者の増加には至りませんでした。 ②第1部作品発表の類似先願の事前確認は数回に留めました。議論活性化を期待し項目としましたが、作品発表者の意欲に水を差すと思われる状況も多く、次年度の事業内容から除外する予定。 ③第2部研究会テーマとして「知財」に関する会を3回実施しました。特別顧問：弁理士の小林先生の講義、4月「商標」10月「意匠」。8月「特許と実用新案比較」でもアドバイスをいただきました。 ④会員以外の講師による第2部開催は計3回。小林先生の2回の講義の他、6月に婦人発明家協会会員による「クラウドファンディング活用、Makuake」講演を実施しました。 ⑤発明ポイント制度は実態に合わせた見直しを一部行い継続しました。
		集合型開催		
		オンライン開催		
		第1部作品発表：類似先願の確認・情報提供		
		第2部研究会：テーマの多様化、外部講師講演・講習		
2	業 展 示 会 発 表 、 W E B 開 公 開 等 の 事	ホームページ(対外)による発信	広い層にアイデア創出の楽しさ、便利さを発信します。 掲載を希望する会員の発明品紹介 新規性喪失防止とアイデア流出防止の観点から2年以上経過分を掲載。 会員が街で見つけたアイデア商品・グッズ紹介コーナー	①年度始はホームページのトップページにイベント出店の状況を積極的に掲載しました。ところが、イベントの作品販売記事のウェイトを高めた結果、見学参加者が減少しました。7月からイベント出店記事を「当会の概要」ページに移動したところ、再び見学参加者が増加。2024年度見学参加者：12名(全員9月以降)、ビジター参加(非入会2回目以降参加):2名。 ②会員の発明品紹介は、新規の希望者がなく、2024年2月「ハマナビ」放映分の紹介で留まる。 ③「ハマ発明ニュース」の公開を慎重に継続中。 ④更新が遅れがちながら、会員のみならず外部読者の目に止まることを目指しました。
		①活動PR入会勧奨		
		②会員発明品紹介		
		③「ハマ発明ニュース」バックナンバー公開		
		④「こんなものを見つけました」コーナー開設		

No.	定款上 事業名	事業内容		詳細・補足・課題	結果
		中項目			
3		「ハマ発明ニュース」寄贈	40年以上継続	継続して寄贈している。 なお、外部郵送用は発表作品のアイデア流出に注意したものを作成し郵送している。 ・横浜市中央図書館、県立川崎図書館 ・横浜市経済局ものづくり支援課、(一社)神奈川発明協会、(一社)横浜市工業会連合会、(公財)横浜企業経営支援財団IDEC	
		図書館寄贈			
		公的機関へ送付			
4	③ 供、発明の考案団体等と交流する事業（見学会、過去の事例閲覧提供）	個人会員増加策の実施	「アイデアを形にした方」「作品を発表し意見を知りたい方」「特許など出願直後の方」に対する入会勧奨	見学参加希望の方、参加済の方には、個別にメールを送信し対応したが、2024年度見学参加者12名に対し、入会1名、新年度入会予定2名となった。	
5		個別テーマ勉強会	勉強会を希望する会員に、グループ勉強会開催の支援（告知、セルテ使用、ZOOM利用等）を行います。	かねがね要望があった「3Dデータ作成ソフト：Fusion習得講習会」が、参加者数が少ないという課題はありましたが開催できました。 残念ながら、任意の多様な集りは出来ていません。	
6		見学会開催	工場、工房、展示会等への見学会開催	・展示会参加は、個別の動きに留まった。 ・「Fusion習得講習会」の初回を「ものづくりスペース瀬谷」で開催し、3Dプリンターやレーザーカッター等があるFablabo見学の場になった。	
7		会員への情報提供の継続・ホームページ「会員専用ページ」の充実 「ハマ発明ニュース」提供 発明遺産バックナンバー閲覧提供 明細書用語検索機能開発	①会員専用ページを、会員にとって「生涯学習の場」「実務のナビゲーションの場」となるよう充実を図る。 ②展示会・イベント情報の提供 ③「アイデアブック」「ハマ発明ニュース」PDF化。会員専用ページで閲覧可能にする。	①会員専用ページを「生涯学習の場」「実務のナビゲーションの場」とすることを目標としたが、第2部資料の羅列状態を継続するに留まった。体系立てた構成にすることが課題。 ②「ハマ発明ニュース」の内容充実に努め、特に「日曜発明サロン」講義・講演内容については、資料・録音を確認し正確な内容とした。誤った説明や曖昧になっていた事項は訂正・補足をを行い、また、情報源のURLリンクをつけた。 ③過去の「アイデアブック」「ハマ発明ニュース」のPDFデータ化進展なし。 ④明細用語集の検索機能開発も進展なく、一旦事業項目から除外予定。	
8		他の発明団体等との交流 「ハマ発明ニュース」提供	(一社)発明学会、(一社)婦人発明家協会、川崎発明振興会	・婦人発明家協会会員の講演を実施。 ・「ハマ発明ニュース」は、作品発表した会員の出願予定に影響しないように注意して提供した。	
9	④ 発明・考案の相談・助言事業 試作品の製作助言・仲介 作品のモニター実施 特許出願等知財権利化・知財係争時の専門家紹介 製品化クラウドファンディング活用	発明・考案の相談・助言事業	・アイデアを形にする方法（試作）や手段、またその手配に関する助言や仲介 ・作品のモニターを簡便に行えるように、会員相互が協力する仕組みを構築します。 ・弁理士、INPIT神奈川県知財総合支援窓口との連携を強化します。出願を考えている会員等に、その環境に応じた相談先を助言・案内します。	①「ものづくりスペース瀬谷」との出会いにより、会員の試作品づくりの可能性が広がりました。 ②試作依頼を全面的に引き受ける人物を希望する会員が多い中、2月見学参加した岩崎桂太郎氏が遠隔ではあるが、試作協力できることとなり、2024年度1件目の試作依頼が実現した。 ③作品モニターは仕組みづくりの進展なし。 ④希望者に特別顧問小林先生による「発明相談」を随時取次を行うと共に、外部からの相談に対し神奈川県知財総合支援窓口を紹介した。なお、神奈川県知財総合支援窓口には、当会のチラシを継続的に設置していただき、2月開催の「テクニカルショウヨコハマ」には当会会員の作品展示を2年連続実施。 ⑤6月「日曜発明サロン」第2部でクラウドファンディング活用実績はないが、6月に婦人発明家協会会員に「Makuake」の活用・体験を講演していただいた。	

No.	定款上 事業名	事業内容		詳細・補足・課題	結果
		中項目			
10	明⑤ ・国 考 案 事 業 者 紹 介 事 業 発	発明・考案品の紹介事業	法人会員、協賛法人 増加策	ダイレクトメール (ネット、郵送等) 自前での開発力に乏し いなど様々な事情によ り、新商品を求める法 人・企業への情報提供 を市役所担当課や県内 工業会等と連携	ダイレクトメール、法人会員増加策共に実施できず。 12月に商工会議所を訪問し、マッチング機会の提供を打診したが進展なし。
11	施⑥ 、発 及 明 び ・ 考 購 案 入 品 者 の 評 試 価 験 的 把 販 握 売 事 業 実	発明・考案品の展示発表	GIBUN 手づくり市 その他外部イベント への出店	「②発明・考案品の公 開・発信事業」の位置 づけも兼ね、イベント に出店します。 状況に応じて、他の開 催イベントへの参加 や、独自イベントの開 催を検討します。	・イベント出店をする上で、「会員の販売可能作品の減少」が課題となっ てきました。また、2024年度の出店では「多くの来場者が見込める場所に出 できなかった」という課題もありました。 ①4月「GIBUN手づくり市」に出店。来場者層が前年と変化がなく、新しい 発明品がない状況での出店メリットは低く、販売実績も減少した。 ②11月「ハローよこはま」は、付与された立地に恵まれず来場者数が前年度 より大幅に減少。出店ブース内に「困った！あったらいいのに！使ってガッ カリ」を記入できる『落書きボード』を設置し、書込み数76件。「日常、 感じている不便が急に思いつかない」という声の多さに驚いたものの、来場 者が少なかった分、落ち着いて来場者と対話ができたことはメリットでし た。 ③5月1ヵ月間、なか区民活動センター内のオープンスペースで、当会活動 のパネル展示を実施した。また、同時に「ナカナ・カフェ」展示販売スペース で委託販売を行った。「ナカナ・カフェ」の営業が火曜日から金曜日と短く、 販売実績としては僅かでしたが、直接説明はしなくとも「委託販売」で売れ る物であることが確認できました。
12	座⑦ 実 出 施 前 講	出前講座の実施 (自治体、学校、各種団体等)	受託講座	依頼に基づき出前講座 を行う。発明・考案の 楽しさや可能性を啓蒙 する。	実績なし。 優先順位として、積極的に出前講座の受託を働きかける状況にはない が、活動メニューとしては残します。

(2) その他の事業

No.	定款上 事業名	事業内容		詳細・補足・課題	結果
		中項目			
1	あ 運 営 方 の	事務所のあり方検討、移 転方針の検討	移転に伴う財政への 影響開示。会費に関	関内駅前再開発計画に 伴うセルテ退去期限 2025年3月末。市民共 同オフィス内の他テナ ントと同調した移転、 個別移転、事務機能の クラウド化、当会が主 テナントとなりシェア オフィス事業を行う 等、複合的に検討しま す。	・関内駅前再開発計画に伴うセルテ退去期限は、2025年12月末まで延長され たが、会の財政状況および12月末退去時の費用負担を鑑み、3月末をもって、 よこはま市民共同オフィスから退去し、2025年度から「事務所を持たない団 体」として運営していくこととした。 ・法人登記住所：副会長兼事務局長の自宅、対外的なポスト住所：ものづく りスペース瀬谷と契約。 ・法定書類等の保管場所：なか区民活動センター内の無償貸与ロッカー、備 品・什器：加瀬トランクルーム とした。 ・固定電話廃止。安価な音声対応SIMのスマートフォンに変更する。 (様々な可能性を鑑み2023年に定款変更も行ったが、「事務所を持たない」 選択とした。事業項目として終了)
2	事 務 所 等 の 賃 貸	シェアオフィス運営			
3	へ 発 明 ・ 考 案 品 の 販 売 事 業	当会名のネットショップ 開設の可能性検討		販売の柱となるものが 明確になり、収益見込 と法人地方税均等割負 担等とを比較し、确实 に収益が上げられる状 況になることが見込め る時点で販売事業を開 始することとします。	地方法人税定額部分の金額以上の収益が見込めれば、発明・考案品の販売事 業も検討できるが、逆に会員の販売可能作品が減少しており、当面目途は立 たない。